

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 138 人

② 数学 138 人

5 留意事項

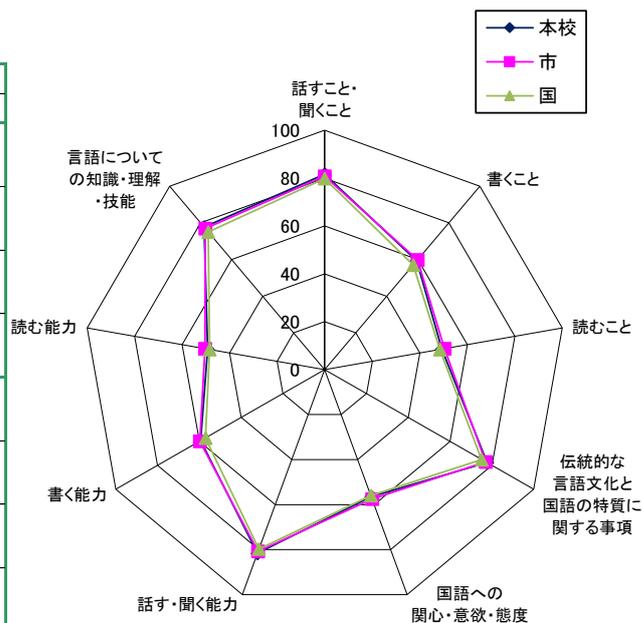
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	81.6	80.8	79.8
	書くこと	59.4	59.8	57.1
	読むこと	49.3	50.4	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.7	77.0	75.1
観点	国語への関心・意欲・態度	56.5	57.5	56.0
	話す・聞く能力	81.6	80.8	79.8
	書く能力	59.4	59.8	57.1
	読む能力	49.3	50.4	48.5
	言語についての知識・理解・技能	77.7	77.0	75.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

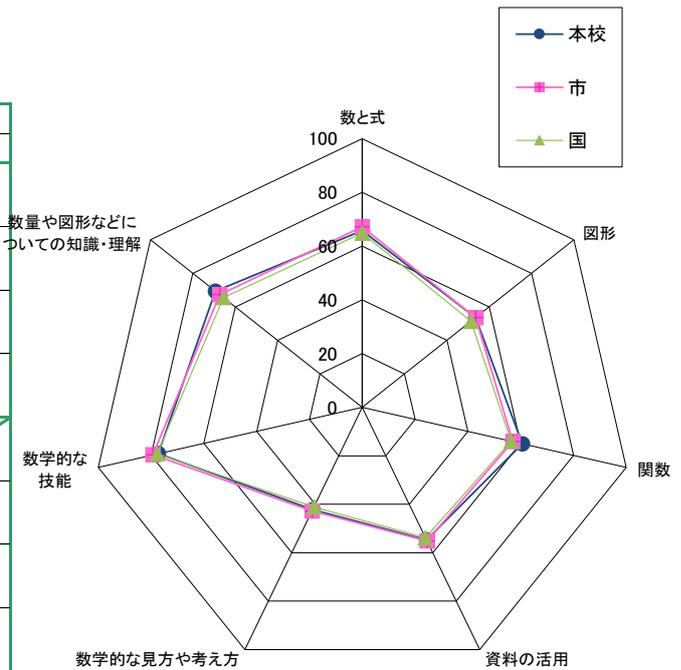
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>正答率は市や国よりも僅かながら上回っている。 ○会話を聞いて、正しい選択肢を選ぶ問題では、正答率が90%以上と、よく理解している。 ●誰がどのように発言するとよいか自分の考えを書く問題では、正答率が57%に留まり、課題が見られた。</p>	<p>・受容的な態度で他者の発言を聞けるように指導していくことで、自分の考えや思いを発言しやすい雰囲気作りを行っていく。 ・話し合い活動を行った際には振り返りを行い、どうすればさらに良い話し合いができたか考えさせる指導をする。</p>
書くこと	<p>正答率は国を2.3ポイント上回っているが、市を0.4ポイント下回っている。 ○下書きを修正した意図を選択する問題では、国より8.5ポイントと大きく上回り、授業の中で、お互いの文章を推敲させる活動を行ってきた成果が表れている。 ●自分の考えを書く問題では、市や国の平均を大きく下回り、課題が見られた。</p>	<p>・意見文や感想文など、まとまった文章を書く活動を継続的に取り入れていく。 ・構成表を使い、順序だてて文章を書く力が身に付くよう指導する。 ・相手意識を持ち、適切な図、グラフなどの資料や文体、構成を選べるよう指導する。</p>
読むこと	<p>正答率は国を0.8%上回っているが、市を1.1%下回っている。 ○登場人物の行動の意味や考えを理解する問題では、市や国より正答率が高く、よく理解している。 ●文脈の中での語句の意味を理解する問題や、動作の主を読みとり、文章を正しく理解する問題に課題が見られた。</p>	<p>・根拠を明確にして考えさせることで、文脈や状況を整理して、内容を正しく理解する力を身に付けさせる。 ・読書活動では様々なジャンルの良書を紹介するなどして、語彙を広げたり、いろいろな形の文章に触れさせるようにする。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>正答率は市や国を上回っている。 ○漢字や語句の意味を問われる問題の正答率は高く、語彙力が身に付いてきている。 ●相手や場に応じて敬語を適切に使う問題では市や国より正答率が高いが、50%を切っているため、過半数の生徒が正しい敬語の使い方に課題を持っている。</p>	<p>・今後も辞書を使い、分からない言葉を調べる習慣を付ける指導を継続して行う。 ・正しい敬語を身に付けさせるために、国語の授業だけでなく普段の学校生活全体の中でも逐一指導をしていく。</p>

宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	65.8	67.2	64.9
	図形	53.6	53.6	51.4
	関数	60.6	57.0	56.4
	資料の活用	54.7	55.1	53.8
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	42.2	42.8	41.1
	数学的な技能	77.3	79.3	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	69.4	67.4	65.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>正答率は、国を0.9ポイント上回っているが、市を1.4ポイント下回っている。</p> <p>○整式の加法と減法の計算問題で、県や国を5ポイント以上正答率が上回っており、計算に関する技能が身に付いている。</p> <p>●事柄が成り立つ理由や特徴を説明する問題の無回答率が高い。</p>	<p>・整数の性質を文字を使って説明する問題に対して、穴埋め形式を取り入れるなどの支援を工夫して、説明する問題に対しての対策に力を入れる。</p>
図形	<p>正答率は、市とは同ポイントであったが、国を2.2ポイント上回っている。</p> <p>○扇形の弧の長さに関する問題で、県や国を5ポイント以上正答率が上回っている。また、平行四辺形になることの理由を説明する問題では、無回答率が低く、正答率も4ポイント程度上回っており、説明することに対して抵抗が少ない様子が見られる。</p>	<p>・図形の証明に関する記述力を高めるために、穴埋め形式を取り入れるなど支援の工夫をする。</p> <p>・基本を定着させるように丁寧に支援をし、その後たくさんのパターンの問題を解かせ、応用力を高める指導方法を工夫する。</p>
関数	<p>正答率は、市をも3.6、国を4.2ポイント上回っている。</p> <p>○グラフから必要な情報を読み取る問題では、95%の正答率で、理解が深まっている。また、関数の意味を問われた問題では、県や国の正答率を10ポイント程度上回っている。</p>	<p>・比例・反比例、1次関数、2乗に比例する関数のそれぞれの関数の特徴をとらえさせ、表、式、グラフのつながりを確実にとらえられるよう、工夫して指導する。</p>
資料の活用	<p>正答率は、国を0.9ポイント上回っているが、市を0.4ポイント下回っている。</p> <p>○ヒストグラムからある階級の度数を読み取る問題で、県や国の正答率を4ポイント程度上回っている。</p> <p>●与えられたデータから中央値を求める問題で、県や国の正答率を2ポイント程度下回っている。</p>	<p>・各代表値の特徴を整理して、しっかりと身に付けさせる。</p> <p>・資料の傾向をとらえ、代表値を用いるなど数学的な表現を用いて説明する力を身に付けられるよう、資料を読み取る練習を繰り返す行う。</p>

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」の回答が県を10.9ポイント、全国を13.4ポイント上回っている。学級内での役割分担を学級の実態に合わせて工夫したり、日々のダイアリー記帳での励まし等の成果であると考えられる。教育相談での個別指導等を含めて、今後も生徒一人一人を大切に、自己肯定感の育成に努める生徒指導を継続する。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の回答が県を10.9ポイント、全国を16.7ポイント上回っている。生徒が中心となって楽しい学校行事や学年行事を運営している成果であると考えられる。今後も、学校生活に充実感を持たせていく活動を工夫していく。

○「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の回答が県を10.1ポイント、全国を15.6ポイント上回っている。各教科においてペア活動やグループ活動を行っている成果であると考えられる。今後も、協力し合うことで達成感を得られるような学習や活動を工夫していく。

●「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題についてどのように解答しましたか」という問いに対して、「すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」割合が県より5.6ポイント、全国より3.7ポイント低かった。問題に取りかかる姿勢、時間配分をしながらテスト問題に取りかかる等、の指導をしていく。

宇都宮市立瑞穂野中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自主学習(家庭学習)習慣の定着を目指した指導の実践	全校生徒が、毎日家庭学習としてノート1ページ分以上の学習をする。毎朝各学級ごとに係がノートを回収し、学年担当教員が内容を確認し、必要に応じてアドバイスや賞賛等を与えている。	「1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか」の回答で平日に2時間以上学習している割合が県より4.7ポイント、全国より4.5ポイント上回っている。休日に3時間以上学習している割合が県より6.6ポイント、全国より7.5ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
家庭学習において自分で計画を立てて勉強している肯定割合が県や全国の割合より低かった。	テスト前に各自が計画的に学習するよう『学習計画表』利用の推進を行う。	『学習計画表』をテスト前だけでなく、テスト後の学習の仕方に利用したり、自主学習ノートの利用の仕方を工夫させたり、各自が家庭学習に計画的に取りかかるような指導を工夫する。